

講義コード	515100802	
講義名	くらしと生物学	
(副題)		
開講責任部署	幼児教育科 (短大)	
講義開講時期	後期	
基準単位数	2	
時間	0.00	
代表曜日	木曜日	
代表時限	2時限	
科目分類名	教養科目	
科目分野名	B群	
対象学部・年次	短期大学部・1～2年	
必須/選択	選択	
担当教員		
職種	氏名	所属
専任教員	青木 章彦	指定なし
専任教員	教務委員会 (短大)	指定なし

授業の概要

授業の概要

人のくらしと生きものの関係を、身近な話題を通して学ぶ。保育の現場でも、「生きもの」との関わりを理解することが重要である。

授業の方法

①プレゼンテーションの方法

授業では、板書と配布印刷物、ICTを活用する。また、DVD教材なども見る。

②授業形態

DVD教材を視聴した後に、講義形式で説明する。

キャンパス内で生きもの探しを行い、体験を通して身近な生きものについての理解を深める。

ワークシートを用いて、グループワークを行い、発表を行う。

③アクティブラーニング

生きもの探し（グループ学習、体験学習）、グループワーク、発表（プレゼンテーション）などを行う。

理解度確認のために、ICTを用いて確認テストを行う。

④課題に対するフィードバックの方法

体験学習については、体験の後に解説を行う。

確認テストの後に、解答の解説を行う。

プレゼンテーションには、ルーブリック評価を行う。

授業の到達目標及びテーマ

くらしが都市化するにつれて、私たちが生きものと接する機会が少なくなっている。しかし、食べもののほとんどは動植物由来であるし、味噌・醤油などの調味料も微生物の営みを利用した発酵で作られている。また、最近では花粉症をはじめとした生物起源のアレルギー症で悩んでいる人も多い。

この授業では、人間のくらしと生物の関わりについて、身近な話題を取り上げて講義を行い、学生諸君が社会生活を送るのに必要な生物学の知識を深め、説明できることを到達目標とする。

到達目標については、学習成果における②知識・技能、③実践力と実務能力、④人間性と協働性が該当する。特に②を重視する。

この授業は、幼児教育科のディプロマ・ポリシーの「1.諸領域（人と自然・人と社会・人と文化・言語・情報・キャリア形成）の学問分野における基礎的知識を持っている。」を達成するための科目である。

授業計画表

回	担当教員
第1回	ガイダンス くらしの中にひそむ生物学の諸問題 水はどこから来て、どこへ行く？
第2回	生物の進化 進化カレンダー
第3回	生物の特徴と共通性 人間と細菌の違い
第4回	細胞 生命の最小単位

第5回	物質代謝とエネルギー 代謝生きるために体の中で起こっていること
第6回	子どもに多いアトピー性皮膚炎 免疫とアレルギー
第7回	化粧品アレルギー ストレスとアレルギー
第8回	新しい病気? 鳥インフルエンザ、SARS、BSE、O-157、AIDSなどの感染症
第9回	新型コロナ感染症について
第10回	生態学の基礎 みんな家が必要だ
第11回	生態学とは 個体群生態学と生態系生態学
第12回	生きものと人間の共生を考える 「キャンパスの生きもの探し」
第13回	地球が危ない!? 地球環境問題の本質
第14回	くらしの中で役に立っている生物 「チーズはどうやって作る？」
第15回	まとめ これまでの授業を振り返る

授業時間外の学修

毎回、授業の最後に復習課題を伝える。次の授業までに復習をすませしておくこと（所要時間90分）。また、同時に、次の授業範囲を伝えるので、事前課題を学習すること（所要時間90分）。

実務経験の有無

--

ディプロマポリシーとの関連

①幼児教育者観	②知識・技能	③実践力と実務能力	④人間性と協調性
	○	○	◎

ルーブリック

評価項目	優秀 (excellent)	平均 (average)	途上 (developing)	未達 (unachieved)
理解度	授業内容を100%理解しており、授業内容を越えた自主的な学修が行えていると認められる	授業内容をほぼ95%程度理解しており、自主的な学修も少し行えていると認められる	授業内容の理解はほぼ75%程度であることが認められる	授業内容の理解は70%以下と判断できるため、レポートへの助言・新たな資料提供等の支援を行っている
課題解決能力	他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができるとともに、解法が定まらない他者に的確なアドバイスができる	基本的に他からの支援を受けずに独自の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を少し受けながら自身の能力で課題を解くことができる	参考資料を参考にしたり他からの支援を受けたとしてもなかなか自身の能力で課題を解くことが難しいので、できるだけ一緒に課題解決ができるよう支援している
調査する力 (予習も含む)	自ら進んで予習範囲を越えて調べるとともに、それを他者に説明することができる	定められた予習範囲について自分の力で調べることができる	定められた予習範囲について調べてはいるが、その理解にはあまい点が多く、不十分な部分がある	定められた予習範囲について調べられない。もしくは内容が不十分である
レポート力 (復習も含む)	テーマについて、授業で紹介した方法、もしくはそれに類する独自の手法を使った分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析が十分になされている	テーマについて、授業で紹介した方法で分析がなされている	テーマについての分析がなされていない

成績評価法 (表形式)

	評価基準	備考
定期試験	40%	期末試験で、授業内容全般の理解度を評価する。
小テスト等	20%	確認テスト及び授業態度を評価する。
	20	

成果発表	%	発表を評価する。
授業への貢献度		
レポート	20%	レポートで、授業内容の習得状況を評価する。
その他		

課題へのフィードバック方法

定期試験や小テストの結果について	課題（レポート等）について	模擬授業、プレゼン、発言等について
その都度解説、講評する	その都度解説、講評する	その都度解説、講評する

ICTを活用した双方向型授業の内容

等 ム 用 用	チャット	クリッカー、アンケート、小テスト ビデオ会議システム 掲示板の活 メール等の活
------------------	------	--

アクティブラーニングの割合

総授業時間数の30~60%程度のアクティブラーニングである

アクティブラーニングの内容

書く・話す・発表する等の活動におけるAL	経験値・技能を高める活動におけるAL	授業時間外におけるAL
グループワークのディスカッションやディベート（議論の場と時間） プレゼンテーション コメントシートの活 小テストや授業内レポートの活 調べ学習・調査の活	実験観察・実習 フィールドワーク PBL(課題解決型授業)	授業前レポート（予習） 授業後レポート

教科書

なし

参考書

『地球大進化 46億年』 NHK「地球大進化」プロジェクト 日本放送協会 各¥1,995 『奪われし未来』 シーア・コルボーン 翔泳社 ¥1,470 『不都合な真実』 アル・ゴア ランダムハウス講談社 ¥2,940

SDGsとの関連

に う う	4. 質の高い教育をみんな 14. 海の豊かさを守ろ 15. 陸の豊かさも守ろ
-------------	---

特記事項等

①実務経験のある教員 特になし

②ナンバリング

LNA1101, LNA1201

③オンライン授業の実施方法

Teamsによる教材提供、リアルタイム授業、小テスト、レポート等、また、ハイブリッド式授業を行う。

④その他の特記事項

特になし

学生へのメッセージ

身近な生きものについての理解を深めるとともに、保育の現場での生きものに関わりを一緒に考えていきましょう。

研究室（訪問先等）

中央研究棟2階 224研究室

火・水・木・金が出講日です。直接、研究室を訪ねてください。

電話番号

028-667-7111 (代)

授業用E-mail

aoki@sakushin-u.ac.jp

成績評価法

- | | | |
|--------|-----|------------------------|
| ①試験 | 40% | 期末試験で、授業内容全般の理解度を評価する。 |
| ②小テスト等 | 20% | 確認テスト及び授業態度を評価する。 |
| ③成果発表 | 20% | 発表を評価する。 |
| ④レポート | 20% | レポートで、授業内容の習得状況を評価する。 |